

令和 8 年度第 2 回文京区立中学校部活動地域展開等推進ワーキング・グループ 記録の概要

日時：令和 8 年 6 月 23 日(火)14 時 30 分から 16 時 00 分まで

場所：オンライン

○ 文京区立中学校部活動地域展開等推進ワーキング・グループ設置要綱の改定について（報告）

【事務局からの説明】

- ・ 第 3 条の委員構成について、サッカー部顧問代表委員を任命する必要から令和 8 年 5 月 12 日に要綱を改定し、6 月 1 日より施行した。

【主な意見等】

- ・ 特になし

○ 令和 9 年度文京区中学校部活動地域展開に向けて（サッカー部、バドミントン部）

【事務局からの説明】

- ・ 本日本お伝えしたい点は、昨年度までの整理、本区の部活動の実情及び令和 9 年度部活動地域展開の方向性と課題の 3 点である。
- ・ 昨年度までの整理として、本区では、「文京区立中学校部活動地域展開実施計画 2026」を策定し、第一次目標として、休日における部活動の教員に頼らない指導体制の構築を掲げている。
- ・ 具体的には、令和 9 年度より「休日の地域クラブ活動」を段階的に実施し、運営や指導を外部委託する予定である。ただし、平日の学校部活動はこれまでどおり継続されることから、中体連の大会参加は、学校単位で参加することを基本とする考えである。
- ・ 本区の実施計画策定にあたってこれまで区内で実施したアンケート結果から、児童・生徒の声に寄り添いながらも持続可能な部活動を実現するため、改革の実現には、関係者全員で乗り越えねばならない一定のハードルがある。
- ・ また、児童・生徒の不安を解消することや意欲のある生徒の期待に応えられる魅力ある活動環境の提供が求められていると認識している。
- ・ そのため、有資格者等の技術に精通した指導者を確保することなど、生徒の満足度を高めると共に教員の負担軽減に繋げる必要がある。
- ・ 次に、令和 9 年度から地域展開モデル競技種目となるサッカー部とバドミントン部の現況について、サッカー部については、令和 6 年度より株式会社ソレイユとの指導運営業務委託契約を締結し、三中と音羽中で合同部活動を展開中である。
- ・ バドミントン部については、過去に 4 校で休日に合同部活動を実施した実績はあるが、運営・指導は、中学校であった。令和 8 年度は、昨年より 18 名増の 240 名の生徒が活動しており、土日の部活動の指導者数は、7 校 19 名（教員 11 名、部活動指導員等 8 名）という状況である。
- ・ 最後に、令和 9 年度の部活動地域展開の方向性と課題について、令和 9 年度 9 月以降の具体的な地域展開推進のしくみづくりとして、サッカー、バドミントンそれぞれの方向性を提示している。
- ・ 両種目ともに、休日の地域クラブ活動に意欲的な教員（顧問）と部活動指導員の理解・協力が得られやすい働き方も検討する必要がある。
- ・ なお、中学校体育連盟の大会に向けた段取り、運営の一例を掲載した。委託業務実績のある数

社からのヒアリングでは、現時点で、これらの業務を完全に外部委託することは困難であり、地域展開後も顧問（教員）の協力・連携は不可欠の状況と理解している。

- ・ 次に令和9年度の実施会場（拠点）校の考え方について、事務局としては、現在活動中の生徒全員が参加し、練習できる受け入れ環境を整える必要があると考える。

また、将来的な平日の部活動地域展開を見据え、現在、部が存在する各校別を基本に一部合同部活動のような展開も試行し、会場（拠点）校化した場合の生徒の参加状況などを（地域展開後の状況を踏まえた見直しも含めて）評価できる設置としてはどうか。

- ・ 現在、当該部活動がある全ての学校を会場（拠点）として、休日の部活動を地域展開するほうが、生徒にとって環境変化がなく、スムーズに地域展開できるかもしれないが、その分予算は増加する。
- ・ 中長期的に少子化が進展し、現実的に単独校での部活動運営が継続不可能と想定されるなか、①部活動の環境を地域全体として支え、部活動を希望する生徒たちの期待に応えられる一定レベルの指導者による充実した指導と練習環境を整備し、持続可能とするため②地域展開後も教員（顧問）との連携が不可欠であるなかで、教員の休日の負担を最大限軽減するための2点を実現し、部活動を持続可能とするためには、一定の集約化は避けられない。
- ・ 一方で、通っている自校に希望する部活動が無く、地域展開を機に新たな種目にチャレンジしたい生徒にとっては、自校で体験できる機会が無いまま会場校に参加することとなり公平性に欠ける。
- ・ これらを踏まえ、競技・種目ごとに、1指導者が見られる生徒数や活動を希望する生徒の通いやすさを想定して会場（拠点）校案を検討した。
- ・ 生徒視点に立って考えても、最初こそ初めて出会う他校生徒や指導者への抵抗や不安があっても、参加を重ねていくなかで、新たな出会いや成長の機会を得るきっかけとなると考えている。
- ・ サッカーの会場校案は現行の音羽中と三中の両方を拠点として全区立中学校より希望生徒が参加する案としており、令和7年度説明どおりの案である。
- ・ バドミントンの会場校案は、2会場、3会場、5会場、7会場の4案を提示しているが、会場（拠点）あたりの生徒数がおおよそ40～50名規模になるように5会場（拠点）とした案が、バドミントンの1指導者あたりの最大指導可能生徒数を基準としつつ、単独拠点校と合同拠点校が混在し、それぞれ展開検証が可能と考える。
- ・ 7会場案は、現在バドミントン部がある全校を拠点として展開する案である。生徒視点では、現在と環境変化が少ないため、スムーズな地域展開が可能だが、拠点校が多いため、指導者数も多くなり、予算も大きくなることが想定される。
- ・ なお、決定した会場（拠点）校であっても、令和9年度以降の地域展開における活動希望生徒数、実施状況や令和10年度の評価結果により、柔軟に見直すことも想定している。
- ・ 最後に、この会議で提示した会場校案は、決定案ではなく、今後の検討で変更もあり得ることに充分留意願いたい。

【主な意見等】

- ・ チームスポーツの場合、地域クラブの参加生徒の偏在により、強いチームと弱いチームができってしまう懸念はないか。戦術により、弱いチームが強いチームに勝つことも良さではある。

また、地域クラブでチームが構成され、中体連以外の大会に参加できる場合、休日の大会引率

は、どの会場校の先生が担当するのか。さらに、サッカー部が無い学校の生徒が、地域クラブに参加する場合、参加生徒が、会場校を選択できるのか。参加生徒の所属校同士で合同部活動として中体連の大会に出ることは想定しているのか。そのあたりは、区として指針を出して欲しい。

→ 中体連の大会は、学校部活動（平日の活動）のチームで出場することを原則としたい。合同部活動での大会参加に関しては今後検討が必要であると考ええる。

- ・ バドミントンの7会場案については、学校の地域展開希望を考慮した案であるか。

→ まず、令和9年度以降の休日部活動の地域展開の意向調査については、現段階で調査することが適切ではないと判断し、調査を中止させていただいた。調査を見合わせた理由のひとつとして、学校希望で学校部活動が継続できると表明することが、国の方針に合致しないと考えたからである。ただし、休日も部活動を指導したい先生が、兼業兼職により活躍できる仕組みは整えたいと考えている。

- ・ 現在、活躍いただいている部活動指導員は、地域展開後も雇用してもらえるのか。

→ 委託事業者の運営や受け入れ方針次第ではあるが、現在雇用している部活動指導員で地域展開後の指導を希望する場合には、継続指導ができるよう検討したい。

- ・ 現在、自校の卓球部は、地域クラブチームの小学生や大人と一緒に練習している。地域展開に向けて、各校独自の取組みは尊重してもらえるのか。昨年度の説明では、学校部活動の継続含め、柔軟に対応したいとの説明であったが、方針変更であれば、早めに周知して欲しい。

→ 地域の特性上、すでに地域と連携が図られている場合については柔軟に対応を図りたいと考えている。

- ・ 地域クラブ活動の会場は、中学校の施設を利用することで決定したのか。参加生徒数が、充分練習できる環境を整備するために区のスポーツ施設等の外部資源の活用は考えているか。

→ 残念ながら、区の施設は、区民利用や活動時間帯などの事情から活用は困難である。

- ・ 参加数の多い会場校の生徒が、参加数の少ない会場校に移動、参加することはできるのか。

→ できない方針としたい。参加者数に合わせて、指導者数は増加することになる。

- ・ 今、検討しているのは、休日の部活動を教員に頼らない指導体制を構築することである。教員が委託事業者から派遣される形で休日の指導に関わることはできる。

- ・ 区として、平日は学校部活動、休日は地域クラブという方針は理解したが、生徒の技術力向上についてどう考えているか。平日に練習を重ね、休日にその力を練習試合で試すことができなくなる懸念がある。

→ 休日の地域クラブ活動を主として考えると、平日の部活動で指導する教員が居なくなる懸念を考慮し、本区は、あくまでも平日の部活動を主とした考え方に立っている。休日の地域クラブ活動は、専門的な技術指導とスポーツを体験できる「場」の提供を狙いとして考えている。

- ・ 現在、多くの運動部が実施している休日の練習試合はどうしたらよいか。チームスポーツの場合は、練習試合は非常に重要な位置づけである。

→ おそらく大会前は、休日は練習試合等の学校部活動になる（地域クラブは休み）と考える。

ただし、年中、休日部活動が学校で続くことは、方針とは異なる。ちなみに、部活動ガイドラインでは土日の活動は、どちらか1日としているので、地域クラブとなったとしても生徒の負担を考えると土日どちらも実施するのは難しいと考えられる。

- ・ 都大会などの上位大会に出場する生徒がいると、地域クラブ活動ができないケースもあるのではないか。

- ・ 硬式テニスは、学校地域の声も考慮しながらの活動となるだろう。自校は、校庭をテニスコートにしているので、他の競技が使用するときには利用できないし、日曜日は、地域の団体に開放しているので、部活動は休みとしている。会場校が利用できないときは、他校会場を使用する必要がある。
- ・ ソフトテニスについては、仮に自校が会場校となった場合、コートが1面しかないので参加生徒が増えると活動に支障をきたすと考ええる。
- ・ 年度ごとに部員数が変動するので会場校を生徒数で決めるのは難しいと思うが、会場校は一度決定したら固定なのか。
→ 基本は、会場校は固定と考えとするが、部員の増減があるので要検討は必要である。
- ・ 部活動の指導に熱心な部活動指導員がおり、大会運営や引率など支援を受けている。地域展開後も教員と同じように地域クラブに関わることができるのか。
→ 具体的な役割を含めて、本人の意向と委託事業者の運営方針次第となる。

○ 事務連絡

【事務局からの説明】

- ・ 前回のワーキング・グループで報告した令和9年度以降の文京区立中学校部運動活動地域展開の意向調査実施について、令和8年5月8日に各校長宛通知（2026 文教教第 296 号）したところである。通知後、事務局で会場校の考え等を検討した結果、現段階での調査は、適切ではないと判断し、調査を中止した。学校の先生方には、混乱を招く形となったことをお詫びしたい。今後、地域展開の方向性と環境整備が進めた段階で、あらためて調査実施の是非を含めて、再検討する。
- ・ 次回開催日は、再調整のうえ委員宛に連絡する。

【委員長より】

- ・ 委員の意見を聞いて、これからも部活動を学校教育の一環として進めたいという気持ちを感じたが、休日の部活動を地域展開することは国の施策なので避けられない。実現に向けて、私たち教員がどのように関わっていくかを考える必要がある。
- ・ ワーキング・グループの議論で「大会」は中体連の大会を念頭に置いているが、それ以外の大会では、地域展開したチームでも参加可能となる大会もある。
- ・ 本日いただいた意見を踏まえ、本区の生徒の部活動環境づくりを進めていきたい。